

平成 30 年度 金沢市森づくり市民会議（第 1 回）

日 時：平成 30 年 5 月 30 日（水） 13 時 30 分～15 時 30 分

会 場：【会議】額市民センター 1 階 会議室

【視察】四十万町 NPO みんなの畑の会

出席委員：上田会長、梅田委員、尾崎委員、河崎委員、北野委員、越石委員、竹下委員、
竹田委員、都野委員、中川委員、森委員、山村委員、山本委員

欠席委員：能木場委員 (五十音順 敬称略)

事務局：山田農林水産局長、仙石森林再生課長 ほか 6 名

【次第】

1. 開会
2. 農林水産局長挨拶
3. 議題
 - (1)平成 30 年度森林再生施策の取り組みについて
 - (2)新しい森林管理システム（森林バンク制度）の概要について
4. 現地視察
 - 四十万町 地域住民による里山整備活動の紹介
5. 閉会

【議事録】

事務局より説明

- (1)平成 30 年度森林再生施策の取り組みについて
- (2)新しい森林管理システム（森林バンク制度）の概要について

(会長)

新しい森林管理システムが構築されるにあたり、国、県、市の関係の整理が必要になる。意見ををお願いします。

(事務局)

6 月に県の説明会が開かれる予定。各自治体に配分される財源の使い道について、詳細はまだわからない。国の方針として、既存事業の振り替えは認められないと聞いている。

(会長)

財源の使い道は限られると思うが、今まで市が持ち出していた予算は使わなくてよくなるのか。

(事務局)

使途の例として、林業大学校の事業は人材育成の典型的な事業になるので趣旨に即していると思う。一方で、既存事業は認められないということから、確認したいと考えている。

次に、森林所有者への意向調査では様々な意見が出ると予想され、私有林のうち個人が管理

できず市が管理する面積はどれぐらいか、国から配分される財源がどれほどで市の持ち出しが必要なのか。また、市が管理の方法や頻度等を決められるのか。未定の部分が多い状況である。

(委員)

意欲や経営力がある森林所有者はおそらく少ないのではないかと。市町村の管理部分は莫大になると思う。

(事務局)

配分される財源でどれだけできるかは、大きな課題である。

(委員)

石川県森林環境税500円とは別に国に1,000円納めるのか。

(事務局)

そうなる。石川県森林環境税については使い道を見直す予定と聞いている。

(委員)

個人住民税4,000円に対して、森林環境税1,000円は大きい。

(委員)

金沢市では昭和50年代から市営造林契約をしている。40年の契約だが、材価の低迷により伐採時の利益が出ないため、再度40年の更新契約をしている。40年で一度精算してほしい。短期でお金になることを考えたらよいのではないかと。

(委員)

木材価格は上がっていないのではないかと。

(委員)

国産材は高くて家を建てられないと聞くが、原木価格は安いことから理解できない。

(委員)

木材価格の相場は全国で作られるものだから、石川県の現状とは必ずしも一致しない。製材工場は高品質・低価格を目指し大規模化しており、品質が一定以上でないユーザーに使用してもらえないのが現状。各県で製造コストに差があり、総じて、木材生産量の多い県は価格が安くなっている。

(会長)

新しい森林管理システムについては、国がこのような施策を打ち出したことから、2回目の会議で時間をとって議論したい。他の議題で意見はないかと。

(委員)

提案が2点ある。1つ目は、木の家づくり奨励金について、新築のみを対象としているが、腰板を貼るようなリフォームも追加したらどうか。気軽に利用できて、より知ってもらえると思う。

2つ目は、木材利用について、薪ストーブの需要が増えていると聞いている。薪ストーブ購入の補助があったらよいのではないかと。煙の苦情があるというが、材質の良くない薪を使用し

ている人が多いと思う。しっかり乾燥したものを使えば臭いも少ない。四十万や東原などで行っている木の駅プロジェクトで出していけば、金沢産材を使ってもらうきっかけになると思う。

(委員)

市民農園のように、市民が森林を整備することは可能なのか。整備することにより山菜などの森の恩恵を受けられると、森林整備が進むのではないか。

(事務局)

本日の現地視察が、まさにそのようなことをしている団体である。市がサポートすることもできると思う。現地で実際に見ていただきたい。

(会長)

まだまだ議論は尽きないが、時間になった。ありがとうございました。

現地視察

四十万町 地域住民による里山整備活動の紹介

NPO みんなの畑の会 西田敏明代表より説明

四十万地区の里山整備で散策路、階段、展望見晴らし広場作りのため、不要竹、木の伐採整理を希望の地主のサポートとして、タケノコ掘り体験会やキノコのホダ木のオーナー制度など、拠点となっている活動場所の説明を受けた。

以上